

120815 セミの産卵

今回のテーマは「**セミの産卵**」です。

この時期、南河内の山を歩くと“カナカナカナカナ”と聞こえる「**ヒグラシ**」の大合唱に包まれることがよくあります。

「**アブラゼミ**」や「**ニイニイゼミ**」は山麓部や集落周辺には多いのですが、山の中ではあまりその鳴き声を聴くことはありません。

何故でしょうか...?

理由は、南河内の山には「**スギ**」や「**ヒノキ**」の“人工林”が多いことが挙げられます。

「**ヒグラシ**」は広葉樹林でも見ることはできますが、どちらかと言えばスギ・ヒノキ林の方を好んで生息している種だからです。

ちなみに、地域ごとの“人工林率”を調べてみますと、次のような結果でした。

- ・豊能地域：33%
- ・三島地域：36%
- ・中部地域：32%
- ・南河内地域：72%
- ・泉州地域：52%

別添の写真は、セミの産卵をとらえたものですが、**山麓部**で見た“**アブラゼミの産卵**”と、**山林部**で見た“**ヒグラシの産卵**”の様子をご覧ください。

写真 : アブラゼミ

不透明な羽は重厚そうに見えますが、世界的には大半の種が透明な羽のようです。

写真 : アブラゼミの産卵前

サクラの木の枯れ枝に、逆さまの体勢でとまっています。

写真 : アブラゼミの産卵中

写真 に比べ尾部を突き出していますが、その前に針のような「産卵管」が見えます。

写真 : ヒグラシ(2匹)

太いスギの木の低い位置に「ヒグラシ」の雌が2匹とまっていました。

写真 : ヒグラシの産卵前

写真 : ヒグラシの産卵中

写真 に比べ尾部を突き出して、樹皮に押し付けているように見えます。

写真 : ヒグラシの産卵痕

樹皮に白い点々が見えますが、一匹の雌が移動しながら産卵した場所だと思います。













